



2023年9月21日

各 位

会社名 日本テレビホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役会長執行役員 杉山 美邦
(コード番号 9404 東証プライム)
問合せ先 総務・人事管理局 IR・SR 部長 大滝 公成
(TEL. 03-6215-4111)

日本テレビによるスタジオジブリの株式取得に関するお知らせ

当社の連結子会社である日本テレビ放送網株式会社（以下、「日本テレビ」）は、9月21日の取締役会で、以下の通り、株式会社スタジオジブリ（以下、「スタジオジブリ」）の株式を取得し、子会社化することについて決議しましたので、お知らせいたします。

なお、スタジオジブリも同日の取締役会で日本テレビへの株式譲渡の承認を決議しております。

記

1. 株式の取得の理由

日本テレビは1985年に『風の谷のナウシカ』（1984年、宮崎駿監督）をテレビ初放送して以来、映画番組「金曜ロードショー」を通じてスタジオジブリ作品を放送し続けてきました。『魔女の宅急便』（1989年、宮崎駿監督）からは映画製作に出資したのをはじめ、2001年に開館した「三鷹の森ジブリ美術館」の設立を支援するなど、長年にわたってスタジオジブリと歩みを共にしてきました。

スタジオジブリは、国内はもとより、海外でも多くの人に愛される作品を生み出してきました。日本テレビは、この世界に誇るスタジオをこれまで以上に支援していくことが、日本テレビグループ全体の企業価値向上に資すると考え、同社の株式取得を決定しました。

なお、日本テレビは、スタジオジブリの議決権の42.3%を自己の計算において所有することとなり、かつ、スタジオジブリの経営面をサポートする契約を締結することにより、同社を子会社化する予定です。

2. 想定されるシナジー

- ① 株式取得を通じて経営面をサポートすることで、スタジオジブリはこれまで以上に「もの作り」に専念していくことが可能となり、新たな作品を生み出す土壌ができます。
- ② 「作品を大事にする」というスタジオジブリの価値観を尊重し続けてきた日本テレビだからこそ、今後もそのブランドの価値を永続的に守り続けていくことができます。

3. 株式取得を実施する子会社（日本テレビ）の概要

(1) 名称	日本テレビ放送網株式会社
(2) 所在地	東京都港区東新橋一丁目6-1
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役会長執行役員 杉山 美邦
(4) 事業内容	放送法による基幹放送事業及び一般放送事業、メディア事業、その他放送に関連する事業
(5) 資本金	6,000 百万円
(6) 設立年月	1952 年 10 月 日本テレビホールディングス株式会社は、平成 24 (2012) 年 10 月 1 日付で、認定放送持株会社への移行に伴い、「日本テレビ放送網株式会社」から商号変更しました。同日付で新たな事業子会社として「日本テレビ放送網株式会社」を登記しています。

4. 異動する孫会社（スタジオジブリ）の概要

(1) 名称	株式会社スタジオジブリ
(2) 所在地	東京都小金井市梶野町一丁目4番25号
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役社長 鈴木 敏夫
(4) 事業内容	アニメーション映画の企画、製作ならびにこれに付帯する業務
(5) 資本金	10 百万円
(6) 設立年月	1985 年 6 月

5. 株式取得の相手先の概要

(1) 氏名	個人株主複数名
(2) 住所	株式取得の相手先が個人であるため、開示を差し控えさせていただきます。
(3) 上場会社と当該個人の関係	該当事項はありません。

6. 取得後の所有株式の状況

異動後の所有株式数	470 株 (議決権の数： 470 個) (議決権所有割合： 42.3%)
-----------	---

※取得価額につきましては、現時点では開示を差し控えさせていただきますが、今後、開示可能となった時点で、速やかにお知らせいたします。

7. 日程

取締役会決議日	2023年9月21日
契約締結日	2023年10月6日（予定）
株式譲渡実行日	2023年10月6日（予定）

8. 子会社化後のスタジオジブリの新経営体制

役職	氏名	備考
取締役名誉会長	宮崎 駿	
代表取締役議長	鈴木 敏夫	
代表取締役社長	福田 博之	日本テレビ放送網株式会社 取締役専務執行役員 日本テレビホールディングス株式会社 上席執行役員
代表取締役副社長	中島 清文	
常務取締役	宮崎 吾朗	
取締役	杉山 美邦	日本テレビホールディングス株式会社 代表取締役会長執行役員 日本テレビ放送網株式会社 代表取締役会長執行役員
取締役	依田 謙一	日本テレビ放送網株式会社 コンテンツ戦略本部事業局イベント事業部 専門部長
取締役	村瀬 拓男	弁護士
監査役	吉江 優介	日本テレビホールディングス株式会社 経営戦略局経営戦略部 担当副部長

※2023年10月30日開催予定のスタジオジブリ臨時株主総会にて決議予定です。

9. 今後の見通し

今後の連結業績に与える影響につきましては軽微であると認識しておりますが、開示すべき事項が発生した場合には、速やかにお知らせいたします。

以上

各 位

2023年9月21日
日本テレビ放送網株式会社
株式会社スタジオジブリ

日本テレビによるスタジオジブリの株式取得に関するお知らせ

日本テレビ放送網株式会社（以下、「日本テレビ」）並びに株式会社スタジオジブリ（以下、「スタジオジブリ」）は、9月21日に各々取締役会を開き、日本テレビがスタジオジブリの株式を取得し子会社化することについて決議しましたので、お知らせいたします。



日本テレビ 代表取締役会長執行役員 杉山美邦（写真左）、スタジオジブリ 代表取締役社長 鈴木敏夫（写真右）。「金曜ロードショーとジブリ展」にて撮影。

スタジオジブリは、今年7月、宮崎駿監督の最新作『君たちはどう生きるか』を7年の歳月をかけて完成させ、劇場公開を果たしました。おかげさまで多くのお客様に足を運んでいただき、数々のご評価をいただき深く感謝申し上げます。

そんなスタジオジブリではありますが、監督宮崎駿は82才、プロデューサーの鈴木敏夫も75才となり、長らく悩んできたのが後継者問題です。

これまで、スタジオジブリを受け継ぐものとしては、創業者である宮崎駿監督の長男であり、自らもアニメーション映画監督である宮崎吾朗の名前が何度か候補に上がってきました。しかし、宮崎吾朗自身としては、「一人でジブリを背負うことは難しい、会社の将来については他に任せた方がよい」との考えから、それを固辞してきました。

そのため、スタジオジブリでは経営を誰かに任せられないかと、その候補を巡って様々に検討してきました。そのような経緯を経て、先般、永年にわたり親しく付き合いのあった日本テレビとスタジオジブリの間で話し合いが始まったのでした。

昨年某月のこと、スタジオジブリの鈴木プロデューサーと日本テレビの代表取締役会長執行役員 杉山美邦とが、とある温泉場でゆっくり時間をかけて話をする機会がありました。その際に、鈴木から「ジブリがこれからも映画づくりに集中するために、経営を日本テレビで手伝ってもらえないか」と申し入れたのです。これに対し、杉山が、「今後ともジブリ作品を応援し、ジブリが映画を作り続けられる環境を守ることになるならば」と、これを前向きに検討することを約したのがきっかけでした。

日本テレビは、1985年に『風の谷のナウシカ』（1984年、宮崎駿監督）をテレビ初放映して以来、映画番組「金曜ロードショー」を通じてスタジオジブリ作品を放送し続けてきました。『魔女の宅急便』（1989年、宮崎駿監督）からは映画製作に出資したのをはじめ、2001年に開館した『三鷹の森ジブリ美術館』の設立を支援するなど、永年にわたってスタジオジブリと歩みを共にしてきました。

日本テレビとしては、国内はもとより海外でも多くの人に愛される作品を生み出してきたスタジオジブリを子会社にしてこれまで以上に支援していくことは、日本テレビグループ全体の企業価値の向上に大いに資するものと考えました。

これまでスタジオジブリの価値観を尊重しながら長く付き合いを続けてきた日本テレビだからこそ、スタジオジブリの「もの作り」やブランド価値を永続的に守ることができると確信したのでした。

そして、協議を重ねた結果、本日開催の両社の取締役会において、スタジオジブリが日本テレビの子会社となることを決議しました。

具体的には、日本テレビがスタジオジブリの株式の取得を進めて、議決権所有割合 42.3%の筆頭株主になります。そして、日本テレビから役員が派遣されスタジオジブリの経営をサポートしていきます。

一方で、日本テレビはスタジオジブリの自主性を尊重し、スタジオジブリは今後ともアニメーション映画の制作、ならびにジブリ美術館、ジブリパークの運営に専念していく所存です。

皆様におかれましては、新生スタジオジブリの活動をこれまで以上にご支援いただきますよう、よろしくお願いいたします。

以上

■本件に関する問い合わせ先

日本テレビ放送網株式会社 総務局 広報部

株式会社スタジオジブリ 広報部